

2022/03/02

報道関係者 各位

東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)

大阪大学大学院理学研究科

アーティストと科学者 交流の過程の展示「ファンダメンタルズ フェス mini」 開催のお知らせ

2022年3月19日(土)から25日(金)の7日間、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)は、科学技術広報研究会(JACST) 隣接領域と連携した広報業務部会と共催、大阪大学大学院理学研究科、理化学研究所 数理創造プログラム、JR 東日本の協力を受け、JR 上野駅 13 番線ホーム(東京都台東区)において、「ファンダメンタルズ フェス mini」を開催します。15組の科学者とアーティストの交流の途中経過を、「問い」を切り口として広く皆様と共有する展覧会です。終着点が見えていない手探りで進行中の交流の只中が開示されます。「わたしが考えたいことは何なのか」、「どのようにしたら考えられるのか」、を知る手がかりがみつかるかもしれません。ぜひ多くの方に足をお運びいただけますと幸いです。

展覧会概要

展覧会名 : ファンダメンタルズ フェス mini

会期 : 2022年3月19日(土) - 3月25日(金)

開室時間 : 10:00-18:00 (3/19(土), 22(火)は 12:00 開始、3/20(日), 24(木)は 15:00 終了)

会場 : JR 上野駅 13 番線ホーム (東京都台東区上野 7 丁目)

料金 : 無料*

主催 : 東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構

共催 : 科学技術広報研究会 (JACST) 隣接領域と連携した広報業務部会

助成 : 日本学術振興会 (JSPS)

協力 : 大阪大学大学院理学研究科、理化学研究所 数理創造プログラム、JR 東日本

*改札外からご利用の場合は、JR 東日本上野駅を区間を含んだ乗車券類または入場券 (140円) のお買い求め、もしくは IC 入場サービス「タッチでエキナカ」(140円) で、ご入場ください。

Web サイト : <https://fundamentalz.jp>

問い合わせ先 : 東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 広報

Tel : 04-7136-5981(本企画担当 : 坪井), E-mail : press@ipmu.jp, Fax : 04-7136-4941

展覧会について（企画者より）

「一見真逆に見える科学とアート。しかし、何か普遍に通じるものを追求するという点で両者は等しいのだ。彼らをファンダメンタルズと呼ぼう。」

最先端科学を中心とした分野の研究者と現代の美術を中心とした作家のことを、共に何か普遍に通ずるものを追う者として”ファンダメンタルズ”と名付けます。

企画「ファンダメンタルズ プログラム」は、科学と美術とわたしを新たに結びつけ直すことで、各領域が活性化し、ひいては新たな文化を形成することを目的としたプログラムです。

公募で集まった科学者とアーティストは、昨年 6 月に実施した両者が丸腰で交流するプログラム「ファンダメンタルズ バザール」への参加を通じて、15 組のペアを形成。そこから約半年間、交流を深めてきました。

本展覧会では、終着点が見えていない、手探りで進行中の 15 組の交流の只中が開示されます。わたしが「考えたいこと」は何なのか。どのようにしたら考えられるのか。知る手がかりがみつかるかもしれません、ぜひ足をお運びください。

なお、来年度の本企画への科学者とアーティストの参加者は、2022 年の 3 月に公募予定です。科学者とアーティストの皆様は、ご参加を検討いただけるようだと幸いです。

*本展覧会は日本学術振興会（JSPS）の科学研究費助成事業（科研費）「多機関による科学と隣接領域を連携したアウトリーチ活動の検証とプラットフォーム構築」（21H04053）の助成を受けたものです。

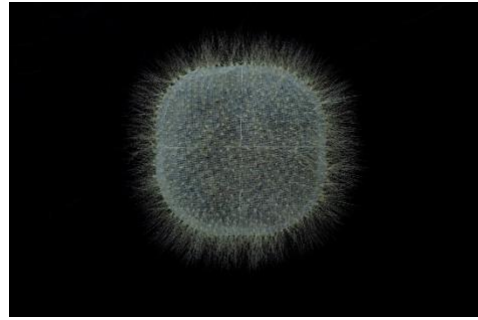
出展作家

アーティスト: うしお, 木村亜津, 黒沼真由美, 澤崎賢一, 古谷咲, 前川紘士, 山根一晃, Nerhol

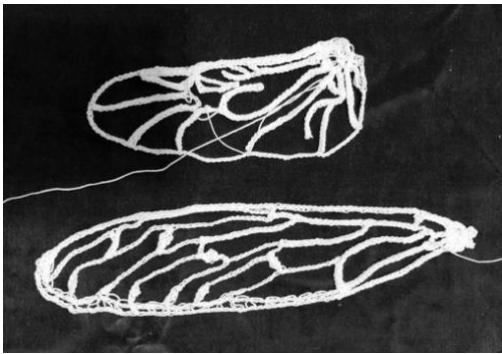
科学者: 石河睦生（医用工学, 桐蔭横浜大学 医用工学部), 石津智大（神経美学, 関西大学 文学部), 一ノ瀬俊明（都市環境学, 国立環境研究所 社会システム領域), 富田秀一郎（発生生物学, 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門), 中島啓（幾何学的表現論, カブリ数物連携宇宙研究機構), 波多野恭弘（非平衡物理学, 大阪大学 大学院理学研究科), 水元惟暁（行動生態学, 沖縄科学技術大学院大学 進化ゲノミクスユニット), 湊丈俊（表面界面科学, 分子科学研究所 機器センター), Hannes Raebiger（物性物理学, 横浜国立大学 大学院工学研究院)



うしお, < 手洗いチャンプルー?? >, 2022



木村亜津, <being there>, 2016



黒沼真由美, <カブトムシ後翅、ミンミンゼミ前翅>, 2021



澤崎賢一, <#まなごしのかたち>, 2021



古谷咲, <ANA'AFTERBEFORE'2020>, 2020



前川紘士, <かたちの合成 from 両手>, 2018



山根一晃, <セッション>, 2019



Nerhol, < Remove >, 2019

展覧会の特徴

- 科学者 x アーティスト=あたらしい文化—ファンダメンタルズ プログラム
「一見真逆に見える科学とアート。しかし、何か普遍に通じるものを追求するという点で両者は等しいのだ。彼らをファンダメンタルズと呼ぼう。」
最先端科学を中心とした分野の研究者と現代の美術を中心とした作家のことを、共に何か普遍に通ずるものを追うものとして”ファンダメンタルズ”と名付けます。
そして多様なファンダメンタルズが一切の偏見なく交流ができる環境を整備します。
また、目先の意味を超えて何か普遍に通ずるものを追うということ自体に大きな意味があることを広くわたしたちと共有してゆきます。この2点により、科学・アート・社会を新たに結びつけ直し、各領域を活性化させること、それが新たな文化を形成することを目指すのがファンダメンタルズ プログラムです。これまでの活動について、記録映像などを用いてご紹介します。
- 現在進行中の科学者とアーティスト 15 組の交流の展示
昨年 6 月、科学者とアーティストが基底で交流する様子そのものを展示するイベント「ファンダメンタルズ バザール」を実施しました。この2日間の交流を経て、20名の科学者とアーティストは、15組のペアを形成。これまでの約半年間、交流を深めてきました。
現在進行中のこの交流の途中経過を広く皆様と共有いたします。まだ終着点の見えていない手探りでの試みが続いている、その只中を垣間見る稀有な機会となります、ぜひお運びください。
- 多岐にわたる"問い"
今年度の参加科学者は、基礎から応用まで、アーティストは平面作品、立体作品、インスタレーション等、幅広いジャンルの専門家が集まりました。
「問う」のプロフェッショナルである彼らが多岐にわたる問いに手探りで取り組んでいるそのプロセスの開示は、先の見えない現代を今生きているわたしたちに、直接的な多くの気づきをもたらすものとなるでしょう。
- 対象別の多彩な関連プログラム（オンライン開催）
プレイベントとして、3つの異なる対象—アーティスト、科学者、学生・社会人、それぞれに向けた3回連続のオンライン座談会を行います。美術篇には美術批評を専門とする3名の方に、科学篇は科学と社会をつなぐ活動に積極的な科学者の方に、社会篇には、専門知と社会をつなぐビジネスを起業した3名の方にそれぞれ登壇いただき、議論を広く開きます。
会期中は連日、小学生を対象としたプログラム、参加する科学者とアーティストの対話、哲学の専門家を介した展示作品の深掘り、参加する科学者によるサイエンスカフェなど、多様な専門家による様々なプログラムを実施します。

展示構成

平面作品、立体作品、インスタレーション、映像作品、ドキュメンテーションを含む、17名の科学者とアーティストの交流の経過を示す19点の展示物を、特別列車の発着ホームである上野駅13番線ホームに展示します。

それに加えて、昨年6月に実施し、今年3月に来年度の参加者を募集予定の「ファンダメンタルズ バザール」の記録映像を含む、ファンダメンタルズ プログラムについてもご紹介します。

関連プログラムのご案内

プレイベント

会期に先立ち、アーティスト、科学者、学生・社会人の3つの異なる対象別に3つのオンライン座談会を実施します。各回に専門家を複数招き、ファンダメンタルズを場として広く議論を開きます。申込不要。無料。

- 美術篇「美術という”謎”」

日時：2月15日（火） 19:00-20:30

登壇者：沢山遼（美術批評）、中尾拓哉（芸術学）、星野太（美学）

<https://www.youtube.com/watch?v=8cQg-nvNquc>

- 科学篇「探究と架橋:基礎科学の可能性」

日時：3月10日（木） 8:00-9:30

登壇者：佐々田槿子（東京大学 大学院数理科学研究科 准教授）、初田哲男（理化学研究所 数理創造プログラム プログラムディレクター）、山極壽一（総合地球環境学研究所 所長）

- 社会篇「学知は”役に立つ”：価値の再考」

日時：2月25日（金） 19:00-20:30

登壇者：加藤哲彦（株式会社トイビト 代表）、西村勇哉(NPO 法人ミラツク 代表理事 / 株式会社エッセンス 代表取締役)、深井龍之介（株式会社 COTEN 代表）

<https://www.youtube.com/watch?v=DbuLwmD3v0o>

会期中イベント

出展中の科学者・アーティストによるオンライントーク: 3/19 (土) -25 (金) 連日 19:00 から。詳細はファンダメンタルズウェブサイトにて。申込不要。無料。

- A トーク
展示作品を媒介に、交流してきた科学者とアーティストそして哲学の方を迎えて対話を深めます。
- B トーク
交流してきた科学者とアーティストが、展示記録を媒介として対話を振り返ります。
- サイエンスカフェ
参加科学者がそのサイエンスをわかりやすくお話しします。

LITTLE ARTISTS LEAGUE によるこども向けオンラインプログラム：小学生対象。各回 15 名程度、要事前申込。参加費無料。

- 「ファンダメンタルズ フェス mini こども鑑賞会」
日時：3月19日(土) 10:00-12:00
- 「こどもワークショップ: 科学者とアーティストから学ぶ問う力(フラクタル篇)」
日時：3月21日(月・祝) 15:00-16:00
登壇者：野村康生、角大輝(京都大学大学院人間・環境学研究科(京都大学総合人間学部兼任)教授)他

科学技術広報研究会(JACST) 隣接領域と連携した広報部会とは

科学技術広報研究会 (JACST: Japan Association of Communication for Science and Technology) は、研究機関や大学などの広報担当者が、所属する組織の枠をこえて、広報活動における課題を共有し、それらを通してお互いに助け合い、共に成長していくことを目指した独立した互助組織です。2007年に設立され、現在 136 機関から 203 名の広報担当者が参加しています。

隣接領域と連携した広報業務部会は、JACSTにある部会の1つで、大阪大学大学院理学研究科、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)、人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、理化学研究所 脳神経科学研究センター (CBS) 等に所属する広報担当者から成ります。例えば芸術や哲学など科学と隣接していると思われる分野と連携した広報業務を実践的に研究しています。

カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU) とは

2007年、文部科学省による事業「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」に採択され、東京大学をホスト機関として発足。世界中から集まった約 100 名の数学、物理学、天文学など 3 つの領域の研究者が連携し、宇宙の 5 つの謎; 宇宙の始まり、終わり、何で

きていて、どのような法則が働いているのか、我々はなぜ宇宙に存在するのか、の解明に取り組んでいる。2012 年には米国 Kavli 財団から寄附を受けて、数物連携宇宙研究機構 (IPMU) から、カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU) と改称。多数の国際共著論文と高被引用論文を輩出している。2018 年から素粒子論を専門とする大栗博司が機構長。

お問い合わせ先

坪井あや (科学技術広報研究会(JACST) 隣接領域と連携した広報部会/ カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)) : contact@fundamentalz.jp

ファンダメンタルズ Web サイト・SNS アカウント

Web: <https://fundamentalz.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/fundamentalz.B>

Twitter: https://twitter.com/fundamentalz_B

YouTube チャンネル: <https://www.youtube.com/c/ファンダメンタルズ>

Instagram: https://instagram.com/fundamentalz_B